

研究主題

話し合い活動の充実を通して自分ごととして考える力を
育てる社会科指導法の研究

砥部町立砥部中学校 教諭 松井 暉典

1 主題設定の理由

近年、グローバル化や人工知能の発達によって、社会はめまぐるしく変化し、子どもたちを取り巻く状況も変化している。将来の予測が困難な現代の社会において、子どもたちには社会で対応できる力を身につけさせる必要があり、学校現場において教師に求められる資質や能力も変化してきた。現行の学習指導要領においては、『深い学びの実現のためには、「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠』(1)と記述されている。これまで以上に、基礎的・基本的な知識・技能の習得に終わらず、習得した知識・技能を活用し、表現する活動が重要である。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、話し合い活動の機会が減少し、本校においては、自分の意見や考えを表現する活動に消極的な生徒が多いと考えられる。そこで、本研究主題を設定し、自分ごととして考える力を育成したいと考えた。

2 目的

社会科の授業において、話し合い活動を充実させ、自分ごととして考える力が育つことを、授業実践を通して明らかにする。

3 仮説

他者の考えに触れたり、比べながら考えたりする話し合い活動を通して、社会科の資料を読み取る楽しさや他者と考えを共有する楽しさを感じることができれば、自分ごととして考える力が育つだろう。

4 方法

(1) アンケートによる生徒の実態把握

(2) 授業実践①②

ア 様々な集団での話し合い活動の場の設定

イ 学習形態の工夫

ウ 生徒の記述による分析

エ アンケートによる分析

5 結果と考察

(1) アンケートによる生徒の実態把握

1学期に3年生の1つの学級を対象に、社会科の学習についての意識調査を行った。「社会科の授業は好きですか」という問いに対して、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒は80%以上であった。一方で、「社会科の授業において、自分の考えをしっかりと書けていますか」という問いに対しては、「あまりできない」「全くできない」と答えた生徒が30%であった。この結果から、社会科は好きであるが、自分の考えを表現することが苦手な生徒が多いことが課題であることが分かった。また、その問いに対して「できる」と答えているが、「社会科の授業において、自分が考えたことをしっかりと相手に伝えることができているか。」という問いに対しては、「あまりできない」と答えている生徒もいた。理由は、「自分の意見が合っているか不安だから」、「自分の意見に自信がないから」などであった。以上のことから、自分の意見を持っていても、それを表現することができないと感じている生徒もいることが分かった。

(2) 授業実践①（「私たちの司法と裁判員制度」）

ア 様々な集団での話し合い活動の場の設定

今年度、社会科の授業を通して、導入では、知識の定着を図るため、前時の内容を復習するペア活動を多く取り入れた。生徒同士で意見交流する場を設けることで、自分の意見や考えを表現することへの苦手感をなくしたいと考えた。また、授業の中心では、グループ活動を行い、生徒同士で話し合う場を設けた。教師が机間指導しながら「なぜ?」「具体的にどういうこと?」といった問い返しをすることで、より明確な根拠が持てるよう努めた。

イ 学習形態や学習活動の工夫

裁判員裁判の授業を実践するにあたり、一人一人が主体的に学習に取り組めるように、実際の裁判員裁判の場面を想定し、模擬評議を行った。また、生徒同士で考えを比較して考えられるようにディベート形式で意見交換する活動を取り入れた。前時の授業で裁判員制度のしくみや導入の意義についての学習を行った上で、次に示す指導案を用いて授業を実施した。

(1) 主題 私たちの司法と裁判員制度

(2) ねらい 模擬評議を通して、裁判員として自分の意思を表明することで、裁判員制度の意義を理解させる。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◇評価(方法)				
1 前時の振り返りをする。 (一斉)	5	○ 前時に視聴した「カチカチ山裁判」の内容を確認する。 ・検察官に質問されたとき、ウサギは黙っていた。 ・タヌキが悪いことをしていた。	○ ペアで前時に視聴した内容について意見交換させる。				
2 学習課題を確認する。(一斉)	3	あなたはウサギの執行猶予を認める？ウサギを刑務所に入れる？	○ 学習課題を提示し、本時の学習に見通しをもたせる。				
3 評議する。(班→全体)	35	<table border="1"> <thead> <tr> <th>執行猶予を認める</th> <th>刑務所に入れる</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ウサギは十分反省している。 ・ウサギに殺意はなかった。 ・ウサギが親のように慕っていたおばあさんをタヌキに殺されたことによる犯行であったため、同情の余地がある。</td> <td>・検察官の問いに対して無言であったため、ウサギには殺意がある。 ・世の中への影響を考えると、「執行猶予を認める」という判断を下すのは良くない。</td> </tr> </tbody> </table>	執行猶予を認める	刑務所に入れる	・ウサギは十分反省している。 ・ウサギに殺意はなかった。 ・ウサギが親のように慕っていたおばあさんをタヌキに殺されたことによる犯行であったため、同情の余地がある。	・検察官の問いに対して無言であったため、ウサギには殺意がある。 ・世の中への影響を考えると、「執行猶予を認める」という判断を下すのは良くない。	○ 前時に個人で考えた意見を基に班で評議させる。 ○ デイベート形式で意見交換をさせることによって、判断した根拠を明確にさせる。 ◇ 根拠を基に自分の意見を発言できているか。 (観察・ワークシート)
執行猶予を認める	刑務所に入れる						
・ウサギは十分反省している。 ・ウサギに殺意はなかった。 ・ウサギが親のように慕っていたおばあさんをタヌキに殺されたことによる犯行であったため、同情の余地がある。	・検察官の問いに対して無言であったため、ウサギには殺意がある。 ・世の中への影響を考えると、「執行猶予を認める」という判断を下すのは良くない。						
4 本時のまとめと振り返りを行う。(一斉→個人)	7	○ 裁判員をやってみたいかどうか考えさせる。 ○ 模擬評議の感想を共有し、裁判員制度の意義を考えさせる。 ・裁判員制度は、国民が司法について考える上で重要な制度である。	○ 裁判員制度のしくみについて再度確認する。 ◇ 裁判員制度の意義を考えたことができたか。 (ワークシート)				

タヌキは法によりウサギを刑務所に入れる？執行猶予を認める？
 認めるべき。刑務所に入れる 刑務所で更生できる？ 執行猶予を認める どちらが反省していると判断したのか？
 なぜ？ 結局やっていたことはやっています。タヌキは死んでいない。ウサギは死んでいない。刑罰の目的は再犯防止のため。
 ○執行猶予にすることで、世の中の影響も大きい。ウサギは深く反省している。→法に背いたという自覚がある。なぜ刑務所に送る前提なのか？
 殺意がなければ、タヌキをたぶらうする？ おいさんの証言⇒ウサギは人殺めに普段から動いている。→執行猶予にして大丈夫。刑務所に送る罰受はたいへん。
 執行猶予がいいのか？ 問いかけに無言だった。 考えたいだけではない？ おいさんと暮らしてウサギは更生できる？ おいさんの言葉は聞く。
 タヌキが死ななくてほしいとウサギは言っていた。 体系的な質問には必ず答えた

<「私たちの司法と裁判員制度」の授業の板書>

ウ 生徒の記述による分析

前時の授業では、裁判員制度のしくみや導入の意義について学習を行った上で、NHK for School「昔話法廷」の「カチカチ山裁判」を15分間視聴した。視聴した内容を基に、ウサギの執行猶予を認めるべきか、ウサギを刑務所に入れるべきかについて個人で考えた。

「私たちの司法と裁判員制度」の授業では、前時に考えた内容を基に、ウサギの執行猶予を認めると判断したグループとウサギを刑務所に入れるべきと判断したグループの2つに分かれ、それぞれで意見を共有した。そして、グループで出てきた意見を全体で共有した。

授業では、生徒同士で活発に意見交換をしたり、反対の立場に対して質問や意見をしたりする様子が観察できた。例えば、ウサギの執行猶予を認める側の「ウサギは深く反省している。」に対して、ウサギを刑務所に入れる側から「どこで反省していると判断したのか。」という質問が出た。その質問に対して、「ウサギはどんな刑罰も受け入れると言っていたから、深く反省していると思う。」と答えており、ディベート形式で意見交換することで、判断した根拠を明確にすることができていた。授業後の感想からは、「ウサギは絶対に刑務所に入れるべきだと思っていたけれど、反対側の意見を聞いて、ウサギにも同情の余地があるのではないかと思った。」「私はウサギの執行猶予を認めるべきだと思っていたが、執行猶予を認めることで、世の中への影響は大きいという意見を聞き、確かにそうだなと思った。」といった記述が見られた。他者の考えに触れ、自分の考えと比べることで、新たな気づきや学びを得ることにもつながったと考える。また、「自分の判断で、裁かれる人の一生を左右することになるため、裁判員は責任重大だと思った。そのため、もっと法に関する知識を身に付けなければならないと感じた。」といった記述も見られた。授業を通して、裁判員制度を自分にも関係あることとして捉え、学習意欲を高めることにもつながったと考える。

エ アンケートによる分析

模擬評議を実施する前と後で、裁判員制度を「是非やってみたい」、「やってみたい」「あまりやりたくない」「やりたくない」のいずれかを選択させ、その理由を記述させるアンケートを実施した。実施前は、29名中「是非やってみたい」が2名、「やってみたい」が6名、「あまりやりたくない」が17名、「やりたくない」が4名であっ

た。実施後は、29名中「是非やってみたい」が2名、「やってみたい」が3名、「あまりやりたくない」が20名、「やりたくない」が4名であった。「やってみたい」から「あまりやりたくない」に意見が変わった3名は「実際に裁判を体験してみて、自分の責任の重さを強く感じ、自分はまだ裁判員として参加することができないと感じたから。」、「法令についてしっかりと学んだ上で、裁判員として参加する必要があると思ったから。」、「自分の判断でその人の一生を左右してしまうかもしれないと思ったから。」と記述していた。授業を通して、真剣に裁判について考えることはできたが、裁判員の責任の重さを感じ、裁判員に対して抵抗感を抱いたと考えられる。

授業実践②（「模擬投資をしよう」）

イ 学習形態や学習活動の工夫

「模擬投資をしよう」の授業を実践するにあたり、一人一人が主体的に学習に取り組めるように、実際の会社設立や投資の場面を想定し、模擬企業や模擬投資を単元の中に取り入れた。また、生徒がしっかりとした知識を身に付けた上で模擬企業や模擬投資の授業に取り組めるように、これらの活動は単元の最後に位置付けた。次に示すのは単元指導計画と本時の指導案である。

単元名「生産の場としての企業」〈単元指導計画（10時間）〉

学習内容	評価規準（評価方法）	時間
1 生産活動とそのしくみ	生産活動における企業の役割について理解している。 【知識・技能】（観察）	1
2 株式会社のしくみと企業の社会的責任	株式会社のしくみや株価の変動について理解している。 【知識・技能】（観察）	1
	企業の利潤を大きくするための方法について主体的に追求しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 （観察・ワークシート）	1
3 企業の競争と独占の問題	資本主義経済の特徴について理解している。 【知識・技能】（観察） 市場ではたらく競争の良い点について自分	1

	<p>の言葉で表現している。</p> <p>【思考・判断・表現】（ワークシート）</p>	
4 グローバル化する経済と現代の企業	<p>グローバル化による企業活動の変化によって生じる課題について自分の言葉で表現している。</p> <p>【思考・判断・表現】（ワークシート）</p>	1
5 企業活動と景気の変動	<p>市場経済での景気の変動と経済活動の関係について理解している。</p> <p>【知識・技能】（ワークシート）</p> <p>景気の変動によって生じる企業や自分たちの生活への影響について自分の言葉で表現している。</p> <p>【思考・判断・表現】（ワークシート）</p>	1
6 働く意味と労働者を支えるしくみ	<p>労働者の権利を守るためのしくみについて理解している。</p> <p>【知識・技能】（観察）</p> <p>自分が働く上で大切にしたいことについて考えようとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】（観察）</p>	1
7 変化する雇用のかたち	<p>現代の雇用に見られる変化について理解している。</p> <p>【知識・技能】（観察）</p> <p>労働環境の変化に伴って生じる課題について、自分の言葉で表現している。</p> <p>【思考・判断・表現】（ワークシート）</p>	1
8 女性の働く環境と高齢者雇用	<p>女性と高齢者の雇用について、その変化と課題を理解している。</p> <p>【知識・技能】（観察・ワークシート）</p>	1
9 会社を設立しよう	<p>会社が利潤を生み出すための方法について主体的に追求しようとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】（観察）</p>	1
10 模擬投資をしよう	<p>社会に必要な様々な形態の起業を行うことの必要性について理解している。</p>	1

	<p>【知識・技能】（観察・ワークシート）</p> <p>会社が利潤を生みだすための方法について自分の言葉で説明している。</p> <p>【思考・判断・表現】（観察）</p>	
--	---	--

〈本時の指導（11/11）〉

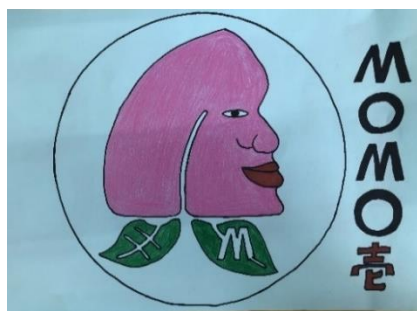
- (1) 主題 模擬投資をしよう。
- (2) ねらい 模擬投資体験を通して、経済活動について多面的・多角的に考察させることで、社会に必要な様々な形態の起業を行うことの必要性について理解させる。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◇評価(方法)
1 学習課題を確認する。 (一斉)	3	模擬投資をしよう。	○ 学習課題を提示し、本時の学習に見通しをもたせる。
2 会社の商品やサービスについて発表する。 (班→全体)	25	○ 班で自分たちが起業した会社のアピールポイントを確認させる。 ○ すべての班に発表させ、魅力ある会社にするためには何が必要か考えさせる。	○ どうすればより多くの投資額を得られるのか考えさせる。 ◇ 会社が利潤を生みだすための方法について自分の言葉で説明している。 (観察)
3 模擬投資をする。 (個→全体)	15	○ どの会社にもどれだけの額を投資するのか考えさせる。 ・ A社の商品は今の時代のニーズに合っていて売れると思った。 ・ B社は、労働者の権利をしっかり守っていて、多くの社員が安心して仕事ができ、生産性の向上につながると思った。	○ 1000万円をすべて使い切り、どの会社にもどれだけの額を投資するのか考えさせる。 ○ 自分の班には投資させないようにする。 ○ 投資した理由を発表させる。
4 本時のまとめと振り返りを行う。 (一斉→個)	7	○ 模擬企業、模擬投資を終えての感想を書かせる。 ・ 実際に会社を経営するのは難しいと思った。 ・ どうすれば社会に必要とされる会社になるのか考えることができた。	◇ 社会に必要な様々な形態の起業を行うことの必要性について理解している。 (ワークシート)

ウ 生徒の記述による分析

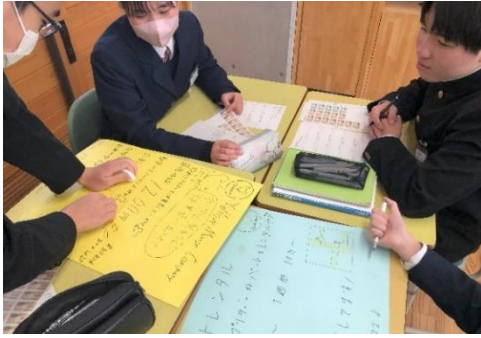
授業では、各グループが工夫を凝らして発表する様子が観察できた。また、単元の学習の中で、グループ内でより多くの額を投資してもらうために何が必要か、様々な面から考える様子が見られた。授業後の感想からは「私は投資というのを詳しくは知りませんでした。しかし、今回の授業を通して企業を運営する難しさや投資額の決定など様々な難しさを感じました。」「今までは会社というものの認識があいまいだったけれど、模擬企業をやってみてしくみが良く分かった。」という記述が見られた。模擬企業や模擬投資を通して、会社を運営する難しさに気付くことができるとともに、会社のしくみについての知識を深めることができたと考えられる。また、「会社の内容、伝え方、この二つが人を説得させるには大事ということが分かりました。投資をする場面では、どの位自分に返ってくるのかを考え、リスクを最小限に抑えて投資をしました。将来きっと投資をする場面が出てくるので、この経験を生かしていきたいです。」「値段設定や労働の条件など今まで考えたこともなくて難しかったです。自分が会社を運営する立場になったときは、労働者の権利を大切にしたいです。また PR の仕方で投資される額が変わると思ったので、聞く人の興味を引くような PR をしていきたいです。」「どこの会社がこれから利益を上げていくかを考え、どれだけ投資するのかを考えるのが難しかったけれど、楽しかった。他にも商品・サービスを自分たちで作ってみたいと思った。」といった記述が見られた。この他にも授業で学習したことを今後を生かそうとする記述が多く見られた。単元の中で、経済活動について多面的・多角的に考察させるために協働的に課題を解決していく場を多く設定することで、生徒同士の意見交換を通して、学習内容の理解を深め、学びを次に生かそうとする意欲を育むことができたと考えられる。



< 生徒が作成した会社のロゴ >

◎自分たちの会社へ投資された額を計算しよう → (1870円) 円
◎クラスで最も投資額が多かった会社名は? → (ヤマキ 酒造)
◎クラスで最も投資額が多かった会社の株価名は? → (尾 酒造 1行 1株)
◎模擬企業、模擬投資をしてみたの感想
他にはない商品やサービスを考えるのはとても難しかった。自分の班よりも発想力がある商品が多くあった。また、どこの会社がこれから利益を上げていくかを考え、どれだけ投資するのが考えるのが難しかったけれど楽しかった。他にも商品・サービスを自分たちで作ってみたいと思った。

< 授業で使用したワークシート >



< 話し合い活動の様子 >



< 発表の様子 >

エ アンケートによる分析

「生産の場としての企業」の単元後に、1学期に行った社会科の学習についての意識調査を行った。対象は1学期と同様、3年生の1つの学級とした。「社会科の授業は好きですか」という問いに対して、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒は81%であった。一方、単元の学習後に行ったアンケートでは、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒は91%であった。また、「社会科の授業において、自分の考えをしっかりと書けていますか」という問いに対しては、「あまりできない」「全くできない」と答えた生徒が30%であった。一方、単元の学習後に行ったアンケートでは、「あまりできない」「全くできない」と答えた生徒が20%であった。意見が変容した生徒の理由としては、「よく意見交換をするから。」「グループ活動や友達との話し合いの機会が多いので自分の意見に自信が持てるから。」「自分がその立場だったらという場面を考えることが好きだから。」というものが挙げられた。この結果から、自分の考えを表現する力を身に付ける上で話し合い活動を充実させることは有効であったと考える。しかし、依然として20%の生徒が自分の考えを表現することに苦手を感じているため、今後どのような手立てでそうした生徒の表現力を育成していくのが課題である。

6 成果と課題

(1) 成果

模擬評議をしたり、模擬企業や模擬投資をしたりするなどして実際の場面を想定した体験的な活動を取り入れ、話し合い活動を充実させたことは、生徒が学習内容を自分ごととして考えることに有効であったと考えられる。模擬評議の授業実践後には、「この場合はどうなるのですか。」と教師に質問する生徒が多く、法律

や裁判についてより深く学ぼうとする意欲が見られた。また、「模擬投資をしよう」の模擬投資の授業実践の考察でも示したように、「商品・サービスを自分たちで作ってみたい」「将来きっと投資をする場面が出てくるので、この経験を生かしていきたい」など、授業を通して、経済について興味・関心を持ち、自分ごととして考える生徒が増えたと考える。

また、体験的な活動を通して他者と考えを比べたり、共有したりすることで、新たな気づきや学びを得ている生徒が多く、多面的・多角的に物事を捉える上でも、話し合い活動を充実させることは重要であったと考える。

(2) 課題

「私たちの司法と裁判員制度」の授業実践の考察でも示したように、授業後に裁判員制度についての考えを深めた生徒は増えたが、裁判員制度に対して抵抗感を抱いたままの生徒も多くいたことが課題として挙げられる。裁判員の責任の重さを感じている生徒の中で、裁判員として裁判に参加することに前向きになる生徒よりも後ろ向きになる生徒が多かった。授業を通して、国民が司法に参加することの重要性を理解させることはできたが、主体的に司法に関わろうとする意欲を高めることは十分にできなかった。

自分ごととして考える力を育成するために、話し合い活動を充実させることは有効であったと考える。しかし、現行の学習指導要領の公民的分野の目標である「現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う」(1)の主体的に社会に関わろうとする態度は十分に育っていないと考える。今後は、主体的に社会に関わろうとする態度を育成するための教材や学習形態の工夫について考えていきたい。

7 参考文献

- (1) 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」 2017
- (2) NHK for School「昔話法廷」
<https://www.nhk.or.jp/school/sougou/houtei/>